

JAPAN HERITAGE

日本遺産

国指定 重要文化財

旧青木家那須別邸

とちぎ明治の森記念館

Important Cultural Property
Viscount Aoki's country villa in Nasu

開館時間／夏期(4~9月)9:00~17:30

観覧料／大人 200円・小中学生 100円

冬期(10~3月)9:00~16:30

休館日／毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)及び12月29日~1月3日

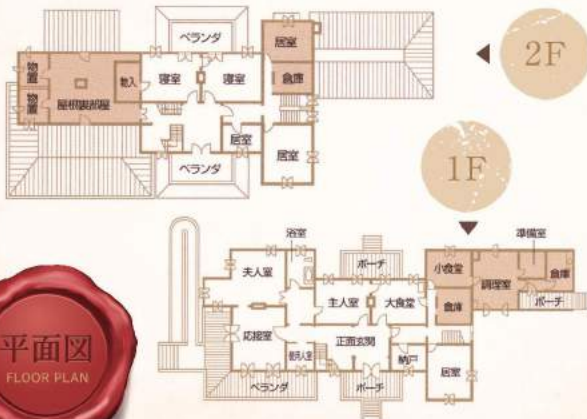
毎月第3日曜日の「家庭の日」は、小中学生の観覧が無料となります。

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方で、手帳の提示をいただいた場合は観覧が無料となります。(平成30.6改訂版)

旧青木家那須別邸は、明治時代にドイツ公使や外務大臣、アメリカ大使などを歴任した子爵青木周蔵の別荘として明治21年(1888)に建築されました。その後増築を重ね、アメリカ大使を退いた翌年の明治42年(1909)に大規模な増築工事を行い、ほぼ現在の姿となりました。

地域で青木邸と呼ばれ親しまれたこの建物は、昭和40年代まで、青木家の別荘として利用されていましたが、創建から長い年月が経ち、老朽化が進んでいました。そこで、この建物を後世に遺し、その歴史的・文化的価値を伝えていくため栃木県は専門家による調査委員会を設けて詳細な解体調査を行い、平成10年(1998)3月に復原工事を終了しました。

そして、平成11年12月には国の重要文化財に指定されました。



3階 小屋裏部屋の骨組(非公開)



階段



1階 夫人室の飾り柱



2階 居室



外壁の人造スレート(瓦型)



屋根窓(ドーマーウィンドウ)

青木邸の設計者と建築的特徴



松ヶ崎萬長

1858年(安政5)~1921年(大正10)

青木邸の設計を担当した男爵松ヶ崎萬長は、岩倉使節団とともに留学生としてドイツに渡り、ベルリン工科大学などで建築技術を学んで帰国したのち、ドイツの建築技術を日本に伝えた建築家です。また、日本建築学会の創設者の一人でもあります。そのため、青木邸にも軸組や小屋組に、ドイツの建築に多用される工法が用いられています。

ドイツで半小屋裏と呼ばれる3階小屋裏部屋は壁を約1m立ち上げ、その上に小屋組材を載せて、利用しやすい広い空間を生み出しています。また、マンサード(二段勾配)風の屋根やドーマーウィンドウ、彫りの深い化粧柱や化粧梁、そして外壁に個性的な瓦型のスレートを用いるなどの特徴を持つ貴重な近代建築です。

平成8年~10年の解体・復原工事では、建物内の内外装を青木周蔵の生きていた明治42年とおおむね同じ状態に戻すことを方針としました。そこで、壁や天井は板張りにペンキを塗った簡素な仕上げにし、壁紙の貼られていた部屋には同様の柄の壁紙を貼っています。また暖炉の大谷石や床材・壁材の一部には老朽化が見られたため、部材全体の約半分以上を新材と取り替えました。

板室街道から青木邸へのびる整然とした並木は、明治時代には通りぬける馬車がよく似合ったといわれ、現在も当時のおもかげをとどめています。並木の北端と別邸の間にあった一対の翌檜(あすなろ)の大樹は、青木邸が南に約50mほど移して復原されたため、現在は、青木邸の裏手(北側)にその枝を広げています。

青木周蔵

(子爵・外務大臣)

1844年(天保15)~1914年(大正3)



青木周蔵と青木農場

明治時代になると、国の殖産興業政策による未開地開拓の気運が高まり、明治13年から18年にかけて、ここ那須野が原にも地元有志の結社や明治の元勳・旧藩主たちが次々と農場を開設しました。

青木周蔵がこの地に青木農場を開設したのは明治14年(1881)のことでした。別荘が建てられた明治21年頃の青木農場は、約1576町歩(約1563ha)の広大な面積を有していました。

長州(山口県)出身の周蔵は、長州藩医・青木家の養子となり、ドイツへ医学留学を果たしますが、志を政治学に転向し、外交官として活躍します。ドイツ公使として長くドイツに滞在し、「ドイツ翁」と称された周蔵は、ドイツの貴族地主(ユンカー)の生活に憧れ、この青木農場で山林経営を主体とする農場をめざしました。水に乏しく原野だった那須野が原も、明治18年(1885)那須疏水の開削によって開拓が加速されました。

現在、那須野が原一帯には山林や水田・牧草畑が広がり、広漠たる原野であった明治初期の面影は見られません。観光地・行楽地としての開発が進むなかで、明治の国のリーダーたちが情熱と野心を抱いて経営した開拓農場と、農場経営の拠点や保養施設として建設された別荘は、那須野が原開拓の歴史を今日に伝える重要な史跡であると共に、彼らの生活を垣間見ることのできる貴重な文化遺産といえるでしょう。



ドイツ風の窓飾り



JAPAN HERITAGE

日本遺産

日本遺産とは、地域の歴史の魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。

旧青木家那須別邸をはじめとした那須野が原に残る明治期の別邸などの文化財によるストーリー「**明治貴族が描いた未来**～**那須野が原開拓浪漫譚**～」が平成30年度に認定されました。

日本遺産ポータルサイト

検索



〈青木別邸の問合せ先〉道の駅「**明治の森・黒磯**」管理事務所

〒325-0103 栃木県那須塩原市青木27番地 ☎0287(63)0399

那須野が原の主な別邸



山縣別邸 ☎0287(44)2320

創設者:山縣有朋 建設年次:明治42年

当時は神奈川県小田原市の別邸古稀庵内に建築された木造洋館です。関東大震災のため倒壊した翌年、嫡男の伊三郎氏によって、矢板市の山縣農場内に移築されました。

(平成2年 県指定有形文化財)



松方別邸

創設者:松方正義 建設年次:明治36年

千本松農場の設立から10年後に農場内に建築された木造の洋風別邸です。現在も、松方家で使用しています。

(非公開・敷地内立入禁止)



大山別邸 ☎0287(36)1225

(那須拓陽高校)

創設者:大山巖 建設年次:明治末期

大山農場の設立とともに和風別邸が建築され、数年後隣接した場所に赤煉瓦造りの洋風別邸が建築されました。現在県立那須拓陽高校が管理しています。

(平成7年 県指定有形文化財)



乃木別邸 ☎0287(36)1194

(乃木神社)

創設者:乃木希典 建設年次:明治25年

創設者自ら設計したもので、平成2年に放火により焼失し、現在のものは平成5年に復元されたものです。

(昭和41年 県指定記念物(史跡))